

事業の背景・目的

珠洲市は豊かな里山里海と多様な生物を有しており、国と石川県の希少野生動植物種に指定されている希少ゲンゴロウ2種にとっては全国有数の生息地となっている。これまで、希少ゲンゴロウ2種については、珠洲市が策定した計画や、石川県の条例と保全対策などにより、ため池の維持や環境配慮型農業の促進、小学生向けの教育活動、保全推進員によるモニタリング調査が行われている。

一方で、社会的な背景やこれまでの活動に起因する課題により、ため池や水田の環境悪化が進んでいる。今後の長期的な保全を目指し、地域住民の理解や協力を得るため、現状把握の調査とその結果などを説明した上で、取り組み方法を相談することが求められている。

事業の内容

希少野生動植物種および生物多様性の持続的保全に向けた現状調査と住民等への説明やワークショップの実施やモニタリング調査への参加を促すことで、住民主体の保全活動を持続的に行う体制構築を促進する。

令和元年

事業① 調査事業

- ・市内のため池生物調査の準備・実施
- ・調査結果のデータベース化

事業② 普及啓発事業

- ・調査等に関する事前説明
- ・啓発資料の作成

令和2年

事業② 普及啓発事業

- ・市民参加型のため池の生物調査の実施
- ・調査等の説明会・今後の取組み検討会
- ・啓発資料の掲示・配布

令和3年

事業② 普及啓発事業

- ・市民参加型のため池の生物調査の実施
- ・調査等の説明会・今後の取組み検討会
- ・啓発資料の掲示・配布

得られた成果

令和元年度に調査事業として始めた方法を用い、令和3年度もため池調査を引き続き実施した。今年度は調査員として18名の市民の協力を得て、年3回（7月、10-11月、2-3月）の調査を72箇所のため池を対象に行った。

その結果、61箇所のため池から、希少野生動植物種を含む122分類群の水生生物を確認した。3年間で、218箇所のため池を対象に現地調査を行い、163箇所のため池から希少野生動植物種を含む174分類群の水生動物が確認された。

普及啓発活動としては、学識経験者を招いて調査方法の指導や、農生物多様性を重視した活動の重要性についての講義を含む講習会を開催し、13名が参加した。また、3年間の調査結果をもとに、今後のため池のあり方を考えるための普及啓発資料の作成を行い、公民館などの文教施設での配布を行っている。